

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL <0762> 52-2271

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：本江他美夫 幹事：長谷川壘人

情報委員長：春田義正

1986・12月11日 第330号

「TQCによる企業改善について」

北嶋経営技術士事務所

所長 北嶋 正廣氏



TQCという言葉、これはあちこちで名前が出ていますし、TQCはよくない、「アンチTQC」という本さえ出ているのが現在の姿であります。私は非常にすぐれた考えではないかと思っております。

それでは私なりにTQCとはどんなものかということからお話させていただきますが、まずTQCを英語で申しますと、Total Quality Controlということで、狭い意味で総合的な品質管理というふうに訳されています。

そこでTotalのTでございますが、これは会社並びに全部門、すなわち全員ということになるわけです。また、次のQですが、品質と申しますと物の機能とか耐久性といったものが浮かびますが、実はそれ以外のお客様に喜ばれるコストとかデリバリー関係サービス関係といったものが含まれた広い品質を指しているわけです。

また最後のControlですが、管理という言葉には管理する者と管理される者というような考えがありますが、ここにあるのは自主改善活動というようなものが含まれていると思っております。従いまして、それらを総合しますとTQCというものは全員が力を合わせて、生きがいを持って、そして企業の体質そのものを強化する、このような活動であるというふうに考えており、このところに非常にすぐれた考えがあると思えます。

それでは、TQC活動を進めるに際しましての大事な考え方をQCセンスという言葉であらわしておりますが、私は次の四つが重要だと思っております。すなわち四つの言葉とは、全員参加、現地現物主義、重点指向、それに方針管理ということだと思えます。最後の言葉の方針管理ですが、これは結局「全員が力を合わせて、そして企業の体質を強化する」というものを具体的にどうしてやったらいいかという、そのやり方を取り決めて、それをやっていけるようにする仕掛けあるいは仕組みだというふうに考えていただければいいと思えます。

今まで申し上げたようなTQCの考え方をベースとしまして、ぜひとも全社員が燃えあがるような企業になっていければ非常にいい会社になりますし、恐らくその会社におることに対する充実感もどんどん増してくると思っております。

こういったことで、これからぜひとも皆んなが喜んで、しかも充実感を持って働けるような企業になるように経営者の方々もご努力いただきたいと思っております。

—金沢北RC例会講話より— (文責 磯貝貞吉)

創立13周年記念例会講話

「明治・大正金沢の演劇史」

石川郷土史学会幹事 牧 孝 治 氏



4月25日は連如さんの日で、加賀、特に金沢ではお寺参りをしたり、山に行ったりする風習があった。私も子供の頃、両親に連れられて、卯辰山に行ってお弁当を食べ、そして夕方には芝居小屋に行ったものでした。当時の唯一の楽しみであったようでした。

金沢の演劇史は古く、350～60年もさかのぼる。出雲の阿国が慶長の頃、京都鴨川のほとりで、念仏をどりを舞ったのが、わが国の歌舞伎の創始といわれているが、これから間もなく、金沢犀川、浅の川のかわらで女歌舞伎が上演されているのです。中でも犀川の片町の西側オニ川のほとりの女歌舞伎は栄え、塩釜十六夜なる女役者は男女の区別なく人々を魅了したということである。しかし、芝居は昼

間のことであって、夜ともなれば、役者連中が宴席にはべりお酌をしたりして華艶を極めたという。このため風紀を乱すとして、藩は、芝居そのものをも禁じてしまったのです。この女歌舞伎は日本の中から消滅し、演劇界は長い暗黒時代へと入ってしまうのです。

上方や江戸では、野郎歌舞伎が生まれ始めていた。いわゆる女形も生まれるのであるが金沢では文政2年ようやく解禁され、200年にわたる禁止が解けたので堰を切ったように復活するのである。犀川上流の川上新町には、2軒もの小屋が建てられた。当時、藩の考え方としては、まだ演劇や遊廓は共に悪所であるとして街端に設置し、この場合も囲いに、くり木戸を設け、その中に芝居小屋を建て、藩の許可を受けた、いわゆる公営によるものだった。小屋そのものは1,700名も収容できる立派なもので、花道、廻り舞台、せり上りもあり、上方や江戸にも負けないものであった。芝居茶屋18軒が並び、関西方面から、ぞくぞくと有名な俳優が来て、人気を呼んでいた。しかし当時の興行は、遠方から来ても1ヶ月も滞在するという習慣であったため経営面から苦しい立場に置かれ、この栄華も再び消滅する浮目を見ることになるのです。

20年も経ち、安政年間になり復活するが、この頃には、そのまま金沢に居残る役者が出て、いわゆる地役者が育つようになる。これがかえって地元へ近親感を増すことになり、非常に賑いを見せ芝居というものが当時の娯楽の中心となっていた。地役者には、嵐若太夫、市川裕治郎、金沢にゆかりのある中村鹿十郎そして加賀の団十郎といわれた名優、嵐寛十郎が居る。

14代藩主、前田慶寧が福沢諭吉の西洋事情に刺激され、卯辰山を改革し、福祉施設、娯楽施設等を建立したが、末広町、今のサニーランドの横に芝居小屋が出現し、尾上松緑一座も来演し非常に人気を拍した。当時、松緑に想いを寄せた、橋場の小間物屋の娘のうわさがかわら版になったという。

明治4年、維新による世相の変化や交通不便等から、卯辰山から浅の川東馬場に移築されたが、桜並木を設けた派手なものであった。一方菊川町の芝居も復活し、浅の川、犀川の両座で一大競演が行われ、全盛時代を築いたといえよう。地役者によるものはもちろん遠方からの一座によるものも行われていた。

明治26年、香林坊に福助座が興る。興行主は、太田七兵衛梅若という非常な手腕家で、その後小松、富山、尾張町と次々と福助座を拡張していった。香林坊第一福助座は、寛十郎が座付となり常時出演していた。山森三九郎は、先の七兵衛と共に加賀の景色の経営者と並び称された人物であったが、彼は、明治30年に並木町の通りにいなり座を開業した。これが後の尾山座となり、更に尾山

倶楽部へと変遷するのです。

大正に入り、白菊町に北国劇場が出現し、先代中村吉右衛門はじめ、専ら江戸役者等による興行で賑わいを見せたが、これに刺激された福助座では、反骨精神に燃え「石川五右衛門」など同じ出し物を打出し料金も下げたりして競争したため、はからずも再び犀川の東役者、浅の川の地役者によって大競演となったのです。

時が移り、昭和ともなると、創始芝居が流行するようになり、シェクスピアのおセロなども演じられた。あの川上貞奴も来沢しているのです。新派、新劇が台頭し始めそのうち活動写真の時代へと移り変って来るわけで、応時の歌舞伎の姿は次第にその面影をひそめてくる。この過渡期には、芝居の間に活動写真を挿入し効果を高めるといふ風なものも出現したりはしたが、そのうち常設小屋もなく地役者の姿も消えていった。第一福助座は中央館となり更に松竹座と変わり映画館となった。

加賀に起った演劇、地役者も時代の波と共に変遷し、スペクタクルな映画に、そして今日、テレビへと移り変って来たのです。しかしこれら演劇の歴史的資料は、幸い、金沢に沢山保存されており、いつでも紐解いて見ることができるのです。

—金沢北RC例会講話より— (文責 中島汎仁)

11月例会出席状況

出席率 99.65%

会員名	月日					11月	会員名	月日					11月
	11/6	11/13	11/20	11/27	11/6			11/13	11/20	11/27			
浅田 楨男	○	○	○	○	◎	大場 勝雄	○	M	○	○	◎		
浅田 豊久	○	○	M	○	◎	大場 吉美	M	○	○	○	◎		
浅野 弘明	M	○	M	○	◎	大村 精二	○	M	○	○	◎		
安宅 雅夫	○	M	M	M	◎	大沢 久弘	○	M	○	M	◎		
二木 塚生	○	○	○	○	◎	岡田 林太郎	○	○	○	M	◎		
合田 昌英	M	○	○	M	◎	岡田 進雄	M	○	○	○	◎		
春田 義正	M	M	M	M	◎	奥田 久吉	○	○	○	○	◎		
長谷川 塑善	○	○	○	○	◎	乙坂 舜直	○	○	○	○	◎		
畠本 江他美	○	○	○	○	◎	坂井 健太郎	○	M	M	○	◎		
市川 則人	○	○	M	○	◎	沢田 哲夫	○	○	○	○	◎		
飯野 健志	○	○	○	○	◎	関田 稔郎	M	M	○	○	◎		
石丸 幹夫	○	○	○	○	◎	柴田 三忠	○	○	○	○	◎		
磯貝 貞吉	○	○	○	○	◎	清水 喜代次	○	○	M	○	◎		
金勝 田平	○	○	M	M	◎	塩村 木透	○	○	○	M	◎		
木島 光一	○	○	○	○	◎	高島 菊丸	○	○	○	○	◎		
木村 丹二	M	○	○	○	◎	高岡 三吉	○	○	M	M	◎		
木下 隆吉	○	M	○	○	◎	滝俣 外代	M	○	○	○	◎		
小駒 林雄	○	○	○	M	◎	土原 安一	出	席	免	除	◎		
小間井 宏尚	○	○	○	M	◎	土原 一成	○	○	○	○	◎		
小越 田好	○	○	○	M	◎	佃 一忠	○	○	M	○	◎		
小越 野民	○	○	○	○	◎	上田 住安	○	○	○	○	◎		
小杉 守善	○	○	○	M	◎	魚住 野三	○	○	○	○	◎		
小増 江泰	○	○	○	除	◎	早稲田 健一	○	○	○	○	◎		
松岡 弘郎	M	○	○	M	◎	山上 啓介	○	M	○	M	◎		
本岡 三千	○	M	○	○	◎	山岸 与真	M	○	○	○	◎		
宗田 市太郎	出	席	免	除	◎	山米 沢二	M	M	M	○	◎		
村田 完三	M	○	○	○	◎	米吉 富士	○	○	○	○	◎		
中村 三省	M	M	○	○	◎	吉由 井一	○	○	M	○	◎		
中中 島汎	○	M	M	M	◎	吉岡 巖海	○	○	○	○	◎		
中谷 栄治	○	○	○	○	◎	吉山 宥	○	○	○	M	◎		

